

インフォメーション・コーナー

会 告

○「平成 28 年度農業農村工学会大会講演会」記念行事 一般市民向け展示会の開催について 8 月 31 日, 9 月 1 日開催	68
○第 40 回「水の週間」水のワークショップ・展示会について (第 3 報) 8 月 16~18 日開催	69
○平成 29 年度農業農村工学会賞候補の推薦について (再) 締切 10 月 31 日	69
○「土地改良事業設計指針『耐震設計』」の発行について (再)	69
○平成 28 年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について (再) 申請締切 9 月 16 日	70
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願ひ	70
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	71
○平成 29 年の学会誌表紙写真の募集 夏季締切 9 月 30 日	71
○「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	72
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿と 2016 年 7 月からの新たな編集体制と編集事務局のスタートについて	73
○土壌物理研究部会第 55 回研究集会の開催について (第 1 報) ⑧ 10 月 30 日開催	74
○第 37 回農地保全研究部会研究集会および現地研修会の開催について (第 1 報) ⑧ 11 月 17, 18 日開催	74
○平成 28 年度 ADCA 地方セミナーの開催について ⑧ 10 月 22 日開催	75
○第 19 回 (2017 年)「日本水大賞」の募集について 応募締切 10 月 31 日	75
農業農村工学会論文集内容紹介	76
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム (一般参加可) 一覧	77
受入れ図書	78
文献目録	78
学会記事	80

第 84 巻第 9 号予定

展望：実利用に近付いたリモートセンシング技術：小川茂男

小特集：圃場モニタリングのためのリモートセンシング技術の最前線

- ▷ 報文：低層リモートセンシングによる圃場の土壌情報モニタリング：丹波勝久ほか
- ▷ 衛星リモートセンシングを利用した洪水灌漑圃場における水供給の不均一性評価：田中丸治哉ほか
- ▷ 小型 UAV 空撮・三次元形状復元技術による傾斜地農地環境の把握：栗田英治ほか
- ▷ リモートセンシングによる茨城県のアブラヤシ管理におけるリモートセンシングの活用：福本昌人
- ▷ マレーシアのアブラヤシ管理におけるリモートセンシングの活用：竹内 渉
- ▷ 作物モデルと UAV 画像を用いた LAI 推定と広域展開の可能性：牧 雅康ほか
- ▷ blue-NDVI を用いた UAV による水稻圃場観測の研究開発：石田圭佑ほか
- ▷ 農業分野へのマルチプラットフォームセンシングの適用：鎌形哲稔ほか
- ▷ ドローンを用いた緑被率の高頻度モニタリングの試行：吉村暢彦ほか

技術レポート

- 北海道支部：農業用排水路に設置する魚道の標準工法の提案：藤原弘昭ほか
- 東北支部：農地の災害復旧におけるタブレットの活用事例について：岡本雅春ほか
- 関東支部：養老堰工事における半川締切りの鋼矢板打設工法の実施事例：桑原 透
- 京都支部：淡路地域における田んぼダム用の堰板の検討：生方俊佑
- 中国四国支部：カワバタモロコの生息環境への配慮の取組み：原田 大

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 28 年 8 月 16～18 日	農業用水展示実行委員会	第 40 回「水の週間」水のワークショップ・展示会	田んぼの水はどこから来るの？何をしてるの？—農業用水のさまざまなはたらき—	東京都	84 巻 6, 7, 8 号
平成 28 年 8 月 29 日	農村計画研究部会	第 38 回現地研修集会 Ⓟ	水田大規模経営と農村の未来	西磐井郡平泉町ほか	84 巻 6, 7 号
平成 28 年 8 月 30 日～9 月 2 日	大会運営委員会	平成 28 年度農業農村工学会大会講演会 Ⓟ	—	仙台市	83 巻 12 号 84 巻 1, 4, 7 号
平成 28 年 9 月 1 日	材料施工研究部会	災害復旧事業の現場見学会 Ⓟ	東日本大震災における農業水利施設の復旧の現状と材料施工分野の役割	浪江町相馬市	84 巻 7 号
平成 28 年 9 月 1～3 日	サマーセミナー 2016 実行委員会	サマーセミナー 2016	農業、農業工学の現状・課題・将来についての意識の共有	仙台市	84 巻 5, 7 号
平成 28 年 10 月 20, 21 日	九州沖縄支部	平成 28 年度支部大会 Ⓟ	—	鹿児島市	84 巻 4, 7 号
平成 28 年 10 月 27, 28 日	中国四国支部	第 71 回支部講演会・第 40 回地方講習会 Ⓟ	—	松山市	84 巻 5, 6, 7 号
平成 28 年 10 月 30 日	土壌物理研究部会	第 55 回研究集会 Ⓟ	—	京都府	84 巻 8 号
平成 28 年 11 月 9 日	関東支部	第 67 回支部大会 Ⓟ	—	長野市	84 巻 6, 7 号
平成 28 年 11 月 16, 17 日	京都支部	第 73 回研究発表会 Ⓟ	—	大阪市	84 巻 4, 6 号
平成 28 年 11 月 17, 18 日	農地保全研究部会	第 37 回研究集会・現地研修会 Ⓟ	農地保全と自然災害	高知市ほか	84 巻 8 号
平成 28 年 11 月 29 日	北海道支部	第 39 回研修会 Ⓟ	—	札幌市	—
平成 28 年 11 月 30 日	北海道支部	第 65 回研究発表会 Ⓟ	—	札幌市	—
平成 29 年 1 月 25 日	北海道支部	支部講習会 Ⓟ	—	札幌市	—

「平成 28 年度農業農村工学会大会講演会」記念行事 一般市民向け展示会の開催について

公益社団法人農業農村工学会は「農業農村工学の進歩及び農業農村工学に関わる研究者・技術者の資質向上を図り、学術・技術の振興と社会の発展に寄与する」ことを目的としています。農業農村工学の果たしている役割や魅力を広く一般市民、とりわけ若い世代に対して広報することの重要性から、仙台市で開催する「平成 28 年度農業農村工学会大会講演会」記念行事として、一般市民向け展示会「『水土の知』」をご存じですか—伊達藩から東日本大震災、そして未来へ—を開催します。

1. 日 時 平成 28 年 8 月 31 日（水）10：00～18：00
平成 28 年 9 月 1 日（木）10：00～17：30
2. 場 所 仙台商工会議所会館（1 階会議室）
〒980-8414 宮城県仙台市青葉区本町 2-16-12
3. 主 催 （公社）農業農村工学会
共 催 宮城県
後 援 農林水産省東北農政局、仙台市、
仙台市教育委員会
協 賛 （一社）土地改良建設協会、（一社）農業土木事業協会、（一社）地域環境資源センター、全国水土里ネット、水土里ネットみやぎ

大学生といっしょに
のぞいてみよう「水土の知」
体験無料！
平成28年8月31日～9月1日
仙台商工会議所 1階会議室

仙台のまちを、伊達政宗が城を築いて以来、多くの人が、水を引き、沼地を農地（土）へと変えてきたことによって今の姿になりました。
人と水と土との不思議な関わりをちょっとのぞいてみませんか？





きみは、ぜんぶの田んぼに水を引くことができるかな？

土に色水をながすと、出てくる水はどうなるでしょう？

地球上の水はどう使われているの？

水の流れるトンネルの中をロボットが点検！

<http://www.isidre.or.jp/koenkai/>

4. 展示内容（調整中）

(1) パネル

- ・仙台地域の形成と水土の歴史地理パネル
- ・日本の疎水や農業用水の不思議な役割のパネル
- ・東日本大震災からの農業の復旧・復興パネル
- ・未来の農業農村の姿パネル

(2) 図書などの展示

- ・水土の知に関連する図書、ビデオなどの紹介
東大ハチ公物語、こちら農村探偵クラブ、新・田舎人、「水のみち」は生きている、世界の水田・日本の

水田、など

(3) プレゼン&体験コーナー

- ・大学生などによる農業用水などの解説やゲーム感覚の体験コーナー

5. 参加費 無料

6. 問合せ先

(公社) 農業農村工学会 事務局

E-mail : suido@jsidre.or.jp TEL : 03-3436-3418

※会場の運営に参画していただける学生・院生を募ります。
件名を「仙台展示会」としてEメールでご連絡下さい。

第40回「水の週間」水のワークショップ・展示会について（第3報）

「水のワークショップ・展示会」は例年同様「水の週間」のイベントの一つとして行われます。

今年も昨年までと同様に、農業農村工学会が農業用水展示実行委員会を組織し、関係団体の協力を得て、農業用水分野として展示の準備を進めてきました。昨年と同様に東京国際フォーラムで開催される丸の内キッズジャンボリーのイベントの一つとして出展します。多くの方のご来場をお待ちしております。

記

1. 会 期 平成28年8月16日（火）～18日（木）

10:00～17:00

2. 場 所 東京国際フォーラムG棟701

3. 主 催 国土交通省、東京都、水の週間実行委員会

4. 全体テーマ 水のハッピーデー～水について学ぼう～

5. 農業用水テーマ 田んぼの水はどこから来るの？何をし てるの？

—農業用水のさまざまなはたらき—

6. 展示内容 学生によるワークショップ、iPad アプリによる ゲーム、パネル展示、生き物の水槽など

平成29年度農業農村工学会賞候補の推薦について（再）

平成29年度の農業農村工学会賞（上野賞、沢田賞を除く）を、本誌第84巻第6号94～95ページ掲載の募集要項に則って、推薦書によりご推薦下さい。

締切は、平成28年10月末日です。推薦書様式および授賞規程は学会ホームページをご参照下さい。

「土地改良事業設計指針『耐震設計』」の発行について（再）

この度、「土地改良事業設計指針『耐震設計』」が平成28年5月に発行されました。

<主要改定事項>

「設計指針『耐震設計』」の改定に当たっては、「耐震設計の手引き」を基として、以下の観点から整理・検討を行った。

① レベル2地震動を含む耐震設計に関する一般的事項について解説

1) 基本的な考え方

耐震設計に用いる地震動、施設の重要度区分と保持すべき耐震性能等

2) 調査内容

既存資料による調査、一般的な土質調査、土の動的物性調査、地盤の動力学的性質の調査等

3) 設計条件

地域別補正係数、地盤種別、固有周期、耐震設計上の

基盤面、荷重等

4) 耐震計算法の種類

震度法、地震時保有水平耐力度法、応答変位法等

5) 耐震診断の方法

耐震診断の方法、整備方法等

なお、施設ごとの設計手順等については、施設別の設計基準・指針に記載済みであるため記載しない。

② 各施設で適用すべき基本条件（設計水平震度、耐震計算法等）について、横断的に一覧で比較できるように整理

③ 耐震対策の事例や平行して検討している「設計指針『ため池整備』」の改定内容等、最近の知見について反映

購入希望の方は、下記要領にてお申し込み下さい。

1. 発行書籍

書籍名：土地改良事業設計指針「耐震設計」

監 修：農林水産省農村振興局整備部

発行：(公社) 農業農村工学会
 価格：2,600 円 (消費税 8% 込、送料学会負担)
 規格：A4 判 301 ページ
 改定年月：平成 27 年 5 月

2. 申込方法

I. 個人、法人の場合 (賛助会員を除く)

- ①郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先をご記入下さい。
 振替口座番号：00160-8-47993
 加入者：公益社団法人 農業農村工学会
- ②現金書留：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をご同封下さい。

③代金引換：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えて E-mail または FAX でお送り下さい。別途、代引手数料が必要です。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書を E-mail または FAX でお送り下さい。

3. 申込先

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
 (公社) 農業農村工学会事務局 図書係
 TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494
 E-mail：suido@jsidre.or.jp

平成 28 年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について (再)

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60 万円程度 (原則 1 件 20 万円以内) です。

本年度の申請締切は平成 28 年 9 月 16 日 (金) です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式 (末尾参照) で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あてにお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「戦略的研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4. 助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容 (申請の意義、準備の状況、将来の展望など) を検討して、助成するグループと金額を決定する。なお、この決定内容は学会長に報告する。
3. 助成：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」を助成する。ただし、その助成は原則として 1 年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先す

る。

4. 助成対象：申請できる条件 (助成対象) は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。

(ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者 (本学会員) をおき、構成員 (本学会員以外も可) は原則として 3 名以上、それらの所属する機関が 2 つ以上あること。

5. 活動報告：助成金を受領した「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後 1 年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切：平成 28 年 9 月 16 日 (金)

申込先：研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あて

E-mail：tkiku@jsidre.or.jp

必要記載事項：

- (1) WG 名 (または部会名) (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属 (4) 研究テーマ名 (仮)
- (5) 研究の目的と内容 (500 字程度)
- (6) 研究資金申請応募先 (予定)

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におか

れ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの

助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000 円（何口でも可）

法人会員一口 50,000 円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 （社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加下さい。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信して下さい。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌8月号掲載の問題は9月末日が解答期限）

5. 取得できる CPD 単位

10問正解で2cpdを、7～9問正解で1.5cpdを自動登録

（正解数6問以下の場合は CPD 単位の付与はされません。）

6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

平成 29 年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、平成29年発行の学会誌も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。趣旨をご覧のうえ、ご応募下さい。

趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。人々の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずで。それらは、農村地域のみならず、都市の景観の中にも見つけることができるでしょう。

農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含む景観の美しさを再評価いただいて、忙しい業務の合間

にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介下さい。

記

1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

2. 対象巻号 学会誌第85巻（平成29年1～12月号）

3. 写真の種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。（四つ切りワイド、A4サイズも含まれます）。なお、六つ切りは203×254mm、四つ切りは254×305mm、同ワイドは254×356mm、A4は210×297mmです。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。この場合の画像データ量は一点につき20MB以下とし、形式はJPEGのみに限定します。

4. 枚 数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 夏季 平成28年9月30日

※応募時、過去1年以内に撮影したものに限りです。

6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第85巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成29年度全国大会会場でパネル展示します。

8. 謝礼

採用作品には規定の賞金（1点につき3万円）をお支払いします。また、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History（表紙写真由来）」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」をご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 著作権・出版権

採用作品の使用権および出版権は（公社）農業農村工学会に属します。

11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称（固有名称）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」，「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 84, 85 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ		要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)
84 巻 9 号	圃場モニタリングのためのリモートセンシング技術の最前線	公募終了
10 号	電気料金の変動を見据えた土地改良（仮）	公募終了
11 号	都市農業の価値を活かす農業農村整備の多様なアプローチ（仮）	公募終了
12 号	新技術の導入や創意工夫により各種課題を解決に導く技術力（仮）	8月17日
85 巻 1 号	新たな土地改良長期計画を考える（仮）	9月15日
2 号	海外農業農村開発協力のこれまでとこれから（仮）	公募なし
3 号	ダム保全技術の最前線（仮）	11月15日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

す。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

84 巻 12 号テーマ「新技術の導入や創意工夫により各種課題を解決に導く技術力」（仮）

今年6月の新たな土地改良長期計画（案）における技術開発の促進と普及では「農業の体質強化、災害リスクの高まり等の様々な課題に対応し、本計画で掲げた政策目標の達成に資するため、水管理や営農作業の省力化技術、豪雨情報等の関係者へのリアルタイム提供システム等の新技術の開発に努めるとともに、その円滑な導入・普及に向け、産学官の連携、情報提供体

制の整備、技術系職員を対象とした研修の実施、国の計画設計基準等の技術書の普及・啓発、現場における技術実証等の取組を促進する」とされています。

その一翼を担うため、農業農村工学会では、平成26年度より学会内に全国土地改良優良工事等審査会を設けて、将来の技術発展に大きく寄与することが期待される革新的な新技術の提

案、導入などを行った工事や特殊な現場条件などを独自の創意工夫により克服して優良な成績を取めた工事について、全国土地改良優良工事等学術技術最優秀賞として表彰する事業を行っています。このような新技術に関する取り組みや現場の各種課題を技術力で克服した好事例を広く紹介することは、会員の知識

や技術の習得にも大いに参考になることから、国営、県営事業などを問わず、また具体的に設計・施工に当たられた民間技術者の方々にも積極的に投稿されることを期待して報文を募集することとします。

85 巻 1 号テーマ「新たな土地改良長期計画を考える」(仮)

平成 24 年 3 月に現行の土地改良長期計画が策定されて以降、農地の大区画化などによる農業の体質強化や、農業水利施設の戦略的な保全管理などを通じた食料供給力の確保は着実に進みつつあります。一方、新たな食料・農業・農村基本計画(平成 27 年 3 月)の策定、TPP 交渉の大筋合意など、農業・農村を取り巻く情勢が大きく変化したことから、計画期間を 1 年前倒しし、新たな土地改良長期計画の策定に向けた検討がなされています。

新たな土地改良長期計画(中間とりまとめ案)*では、「個性豊かな活力ある農業・農村の実現」を目指して、「担い手の体質強化」、「産地収益力の向上」、「農村協働力と美しい農村の再生・創造」、「快適で豊かな資源循環型社会の構築」、「農業水利施設

の戦略的な保全管理と機能強化」、「災害に対する地域の防災・減災力の強化」の 6 つの政策目標が掲げられており、今後 5 カ年の計画期間の中で、これらの政策目標の着実な達成に向けた土地改良事業の重点的・効果的な実施を図ることとしております。

そこで、本小特集では、土地改良長期計画で掲げられた 6 つの政策目標の実現のために取り組んでいる先導的な基盤技術、実用的な技術、民間で独自に開発している技術、他分野の応用による新技術などの報文を広く募集します。

* http://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/nousin/bukai/h28_1/pdf/siryu2_1.pdf

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿と 2016 年 7 月からの新たな編集体制と編集事務局のスタートについて

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理)
- ② 排水(排水管理、排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良、土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発、水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節、地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生、陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画(農村計画、土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム(水田農業と水環境、土壌環境、気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用(田畑転換、施設園芸)
- ⑩ 農業政策(農村振興、条件不利地の支援策など)

また、世界 14 カ国から Editor(20 名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer

社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

一方、2016 年 7 月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

- ・ **Editor-in-Chief: Dr. Takao MASUMOTO** (Japan)
Institute for Rural Engineering, NARO (National Agricultural Research Organization), Tsukuba, Japan
- ・ **Editors** 14 カ国から 20 名
- ・ **Advisory Editing Board** 29 名
- ・ **Chief Management Editor**
Dr. Yu-Pin LIN
Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China
- ・ **Managing Editors**
Dr. Jin-Yong CHOI
Institute of Green-Bio Science and Technology, Seoul National University, Korea
Dr. Chihhao FAN
Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China
Mr. Nobuyoshi FUJIWARA
Rural Development Division, Japan International Research Center for Agricultural Science (JIRCAS), Japan

Dr. Kimihito NAKAMURA

Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan

Dr. Andrew WHITAKER

Graduate School of Science and Technology, Niigata University, Japan

編集事務局 (2016 年 7 月から 2018 年 6 月まで) :

・ Dr. Yu-Pin LIN

Distinguished Professor, Ph.D.

Department of Bioenvironmental Systems, Engineering,
National Taiwan University

No.1, Sec. 4, Roosevelt Road, Taipei 10617, Taiwan,
Rep. of China

TEL : + 886-2-3366-3467, + 886-2-2368-6980

FAX : + 886-2-2368-6980

E-mail : yplin@ntu.edu.tw

投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員で PWE 誌の購読者であること。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

発行スケジュール : 年 4 回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 12,343 円

学生会員 (院生含む) 8,743 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込み下さい。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016 年度からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になります。

冊子体の配布はありません。

申込先 : 農業農村工学会事務局

土壌物理研究部会第 55 回研究集会の開催について (第 1 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 主 催 農業農村工学会土壌物理研究部会
 - 共 催 土壌物理学会
 2. 日 時 平成 28 年 10 月 30 日 (日)
 3. 場 所 京都大学吉田キャンパス 農学部総合館 W100
http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/yoshida/map6r_n.html
 4. 参加費 1,500 円 (要旨集代, ただし学生は無料)
 5. プログラム 調整中
 6. その他
- ・宿の予約は個別に手続きをしていただきますようお願いいたします。時節柄混み合うことが予想されています。できるかぎり早めの予約手続きをお願いいたします。

- ・前日の 10 月 29 日 (土), 同所にて「土壌物理学会シンポジウム」を開催予定です。情報交換会は前日開催の土壌物理学会と共催します。詳しくは土壌物理学会ホームページ (<https://js-soilphysics.com/conf>) をご覧下さい。
- ・都合により一部変更することがあります。

7. 問合せ先

農業農村工学会土壌物理研究部会事務局

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577

三重大学大学院生物資源学研究科

成岡 市 (なりおか はじめ)

TEL : 059-231-9574 E-mail : narioka@bio.mie-u.ac.jp

<http://www.jsidre.or.jp/dojou/>

第 37 回農地保全研究部会研究集会および現地研修会の開催について (第 1 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農地保全研究部会は、農地保全に関する基礎的な研究と応用に関する総合的な研究を行うことにより、農業農村工学分野の学術・技術の振興と社会の発展に寄与することを目的としています。本年度は「農地保全と自然災害」をテーマとして、農地保全技術・研究、地震災害と復旧、業務継続計画 (BCP) や地域継続計画 (DCP) について、研究集会 (講演・総合討論等) ならびに現地研修会を開催します。

1. 開催日

- (1) 研究集会 平成 28 年 11 月 17 日 (木) 9:30~17:00
- (2) 現地研修会 平成 28 年 11 月 18 日 (金) 9:00~16:30

2. 場 所

- (1) 研究集会 高知大学メディアホール
- (2) 現地研修会 高知県吾川郡仁淀川町ほか

3. 研究集会テーマ 農地保全と自然災害

4. 問合せ先

農地保全研究部会研究集会事務局

E-mail : NN_Nouchihozen_Sympo_Office@ml.affrc.go.jp

5. その他

日程の詳細や講演者、参加申込方法などの実施要領については、本誌 9 月号に第 2 報として掲載予定です。また、農地保全研究部会ホームページも併せてご確認ください。

平成 28 年度 ADCA 地方セミナーの開催について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. テーマ 国際協力と開発途上国の農村開発
～国際協力におけるコンサルタントの役割～
2. 日 時 平成 28 年 10 月 22 日（土）13：00～17：00
(予定)
3. 場 所 神戸大学 瀧川記念学術交流会館
4. 対 象 神戸大学をはじめとする近隣大学の学生、および
農業・農村開発の若手コンサルタント
5. 主 催 (一社) 海外農業開発コンサルタント協会
(ADCA)
共催：神戸大学
後援：農林水産省、JICA 関西、
(公社) 農業農村工学会

6. プログラム (予定)
 - ・基調講演
京都大学大学院／神戸大学大学院教授 高橋基樹
 - ・現場からの報告 ADCA 会員コンサルタント等
 - ・パネルディスカッション
 - ・業界説明会 (会社紹介・学生個別相談)
 - ・セミナー修了後、懇親会を予定しています。

詳細は、決まり次第 ADCA ホームページにてお知らせします。
7. 申込み
人数・職業および連絡先を明記の上、ADCA まで E-mail で
申し込んで下さい。
E-mail : adca2@adca.or.jp

第 19 回 (2017 年)「日本水大賞」の募集について

1. 目 的

日本水大賞は、21 世紀の日本のみならず地球全体を視野に入れて、水循環の健全化を目指し、美しい水が紡ぎ出す自然の豊かさの中にも水災害に対して強靱な国土と社会の実現に寄与することを目的としています。

2. 対象範囲

(1) 対象となる活動分野

水循環系の健全化や水災害に対する安全性の向上に寄与すると考えられる活動で、水防災、水資源、水環境、水文化、復興のような分野における諸活動 (研究、技術開発を含む) を対象とします。

(2) 対象となる活動主体

水循環系の健全化に寄与すると考えられる活動で、学校、企業、団体、個人、行政の方々が実施する諸活動を対象とします。なお、個人、法人、グループの種別、年齢、職業、性別、国籍等を問いません。

3. 日本水大賞の内容

対象となる活動の中から、優れたものに対して以下の賞を授与し、広く公表します。なお、副賞は受賞活動をさらに継続していただくよう授与しています。

- ①大賞【グランプリ】(賞状・副賞 200 万円)
- ②大臣賞 (賞状・副賞 50 万円)
- 【国土交通大臣賞】【環境大臣賞】【厚生労働大臣賞】
- 【農林水産大臣賞】【文部科学大臣賞】【経済産業大臣賞】ほか

4. 選定の方法等

日本水大賞委員会の下に、上記の賞を選考するために各々の審査部会を設置し、表彰対象となる活動を審査し、最終的には

日本水大賞委員会が決定します。

5. 募集期間

平成 28 年 7 月 7 日 (木) ～10 月 31 日 (月) (郵送の場合は当日消印有効)

6. 応募方法

応募用紙 (3 枚：ホームページからダウンロードして下さい) に必要事項をご記入の上、応募用紙および添付資料を事務局あてに送付または持参して下さい。応募用紙および添付資料が電子データの場合は、E-mail でも応募を受け付けます。

応募方法の詳細はホームページを参照して下さい。

7. 主催等

(1) 主催 日本水大賞委員会

名誉総裁 秋篠宮文仁親王殿下

委員長 毛利 衛 (日本科学未来館館長)

国土交通省

(2) 後援 環境省、外務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、公益社団法人農業農村工学会ほか 33 団体

(3) 協賛 「川の日」実行委員会ほか 5 団体

8. 送付先・問合せ先

【日本水大賞委員会事務局】

公益社団法人 日本河川協会

〒102-0083 東京都千代田区麹町 2-6-5 麹町 E.C.K ビル 3 階

TEL : 03-3238-9771 FAX : 03-3288-2426

E-mail : taisyo@japanriver.or.jp

担当：田畑 (平日 9：15～17：30)

ホームページ : <http://www.japanriver.or.jp/taisyo/>